

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：畜産業費 目：畜産振興費

事業名 県営育成牧場備品購入費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 畜産振興課 酪農・飼料係 電話番号：058-272-1111(内4141)

E-mail：Xc11437@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 11,407 千円 (前年度予算額： 11,165 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	11,165	0	0	0	0	0	0	0	11,165
要求額	11,407	0	0	0	0	0	0	0	11,407
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

岐阜県家畜育成牧場(東濃牧場及び飛騨牧場)は、酪農・肉用牛生産の基礎となる繁殖雌牛の生産拠点とする目的で昭和48年に整備され、平成18年度より指定管理制度を導入し、(一社)岐阜県農畜産公社が管理運営を行っている。

家畜資源の確保及び畜産経営の合理化を目指した牧場運営を行うため、以下の備品を導入する。

【東濃牧場 ロールベラー】

東濃牧場では飼料自給率を向上し飼料費を低減するため、採草地53haで自給飼料(牧草)を生産している。牧草収穫調製作業は、晴天が続くタイミングを見計らい効率的に行う必要がある。しかし、乾燥させた牧草の保存性を高めるため、ロール状に成形する機械「ロールベラー」が頻繁に故障し、作業に支障をきたしているため、当該機を更新することで、効率的に飼料生産を行う。

【飛騨牧場 液体窒素保管容器】

飛騨牧場では、和牛繁殖雌牛の改良及び和牛の増頭に寄与するために、優良受精卵を採取し、県内畜産農家に販売している。しかし、現在、牧場唯一の凍結体外受精卵を-180~-190℃で保管する容器から液体窒素が漏出しており、受精卵の品質低下による不受胎リスクや、全卵廃棄リスクが高まっている。よって、液体窒素保管容器を更新し、受精卵の品質確保を行う。

(2) 事業内容

- ・平成25年に導入したロールベラーを更新し、効率的な自給飼料生産体制を整備する。
- ・平成24年に導入した液体窒素保管容器を更新し、受精卵供給体制を整備する。

(3) 県負担・補助率の考え方

県負担 10 / 10

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
備品購入費	11,407	ロールペーラー 1 台 10,791,000円、 液体窒素保管容器 1 基 616,000円
合計	11,407	

--

4 参考事項

(1) 後年度の財政負担

岐阜県東濃牧場及び岐阜県飛騨牧場の管理に関する基本協定書（抜粋）
（施設及び設備の維持保全）

第17条 管理物件のうち施設及び設備の増築、改築又は改造は、甲（県）が
自己の責任及び費用において実施するものとする。

- 2 1箇所あたり60万円未満である施設等の修繕（経年劣化等により施設等を
本業務の用に供することができなくなった場合において、当該施設等に
代わる物を新たに購入し、または調達するときを含む。）は、
乙が自己の責任及び費用において速やかに行わなければならない。

（備品の購入等）

第18条 1 物品あたり10万円未満である備品の購入又は調達（1件あたり10万円
未満である備品の修繕を含む。）は、必要の都度、速やかに、乙が自己の
責任及び費用において行わなければならない。

- 2 前項の規定の適用がある場合を除き、備品の購入等は、甲が自己の責任に
おいて行うものとする。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

岐阜県東濃牧場および岐阜県飛騨牧場の管理に関する基本協定書に基づき、適正に牧場の維持管理を行う。家畜育成事業を円滑に行い、優良な乳用初妊牛及び優良な和牛子牛の安定供給を継続して行う。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R5)	達成率
①乳用初妊牛譲渡頭数（東濃牧		455	480	480	480	95%
②和牛子牛供給頭数（飛騨牧		181	190	190	190	95%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<p>飛騨牧場 家畜運搬車の更新（令和2年度） 家畜運搬車の更新により、エンジン出力の低下による車両トラブル・事故を防止し、運転手の人命及び運搬する家畜が失われる危険性を低減した。また、牛の市場出荷並びに牧場の上下牧の際の牛の運搬に支障なく運用できるようになった。</p> <p>指標② 目標：190 実績：189 達成率：99%</p>
令和3年度	<p>東濃牧場 トラクター（フロントローダー付）の更新（令和3年度） トラクター及びフロントローダーの更新により、トラクターの運用体系を見直し、出力に見合った農業機械に接続して運用できるようになったことで、牧草収穫作業の効率だけでなく、普段の給餌や堆肥散布などの作業の効率も改善された。</p> <p>指標① 目標：480 実績：455 達成率：95%</p>
令和4年度	<p>指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____%</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない 	
(評価) 2	公共牧場の安全管理のため、老朽化した機械は適時更新する必要がある。また、多頭飼育管理を行うため、作業の効率化は重要な課題であり、機械化を図るための備品購入は必要である。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3:期待以上の成果あり 2:期待どおりの成果あり 1:期待どおりの成果が得られていない 0:ほとんど成果が得られていない 	
(評価) 2	人員が不足する中、機械化により作業を効率化して対応しているので成果は大きい。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている 	
(評価) 1	備品購入計画により、効率的、効果的に進めている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 老朽化が進み、機材の更新時期が重なっているため、計画的な更新が必要である。また、安全な牧場運営管理のために、日々の点検、早期の修繕等が重要である。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 牧場の安全な運営管理、事業効率化のためには、備品購入は今後も継続していく必要がある。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由 や期待する効果 など	【〇〇課】